

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 東京天文台百年記念誌資料ーその2-22-1ー 東京天文台年表 (大正元~13年)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346号に「東京天文台 100周年記念誌作成時の資料ーその1ー」、349号に「東京天文台 100周年記念誌作成時の資料ーその2ー」、353号に「東京天文台 100周年記念誌作成時の資料ーその3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱3個に入っていたので1箱目をーその1ー、2箱目をーその2ー、3箱目をーその3ーとしたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかってにピックアップして書いている。今回は2箱目の22項目について報告したい。第349号のリストには、20項目のリストがあり、それぞれの項目に更に多いものは46件のサブリストがある。今回は東京天文台の年表についての資料を記事にしてきたので、2箱目の関連資料をつまみ食いすることにした。2箱目の22項目目に、

22) 大正元年~昭和23年と書かれた封筒 年表の原稿 39~84ページ

とある。今回は、この原稿の大正元年~大正13年までの年表を載せる。

この間の主な事項には(筆者が勝手に行間調整のため選んだ)

- 1) 大正3年: 三鷹移転工事開始
- 2) 大正4年: 東京天文台以外の学術誌に発表した研究論文の別刷集を「年報付録」として海外に寄贈を始めた。
- 3) 大正5年: 三鷹キャンパスの本館建設工事開始、大正6年竣工
- 4) 大正6年: テッハー分光太陽写真儀、リーフラー一等振子時計2基購入、ゴーチェ子午環未だ備付の運びに至らず
- 5) 大正7年: 東京天文台の職員数: 台長1、教授2(内兼任1)、助教授2(編暦1、観測1)、助手6(編暦3、観測3)、雇員(観測2、庶務1)、書記1、使丁3、職工2、計19
- 6) 大正8年: 寺尾台長→平山台長
- 7) 大正8年12月6日午後1時: 前東京天文台長寺尾博士の送別会を東京天文台講堂にて台員により開催
- 8) 大正9年11月: 一戸直蔵死去
- 9) 大正9年8月15日: 東京の午砲が廃止されたが、東京市役所社会教育課が引き継ぎ、当分の間、東京天文台より電気信号法によって時計斉整し、一日も休みなく引き続き毎日発砲している。
- 10) 大正12年9月1日午前11時58分: 関東地方大震災
- 11) 大正13年9月1日: 東京天文台 三鷹に移転

大正	要 項	出 典	冊 No
2 (1913)			
2	仁川観測所(岡口鯉吉)と東京天文台間の経度差の測定	科学史研究 才17号	18163
2	東北帝国大学にて天体観測所を設置	科学史研究 才17号	18164
2	最近における東京正午砲の成績	月.5-10. p.118 (大.2.1)	2002
2	仁川観測所の経度測量	月.5-12. p.122 (大.2.3)	2022
2	無線電信による時刻報知の成績につきて (概算圖表)	月.6-1. p.4 (大.2.4)	2010
2. 7. 1.	万国協同放射電信時報事業の開始	月.6-2. p.6 (大.2.5)	9006
2	我国にて発見された才二の小惑星	月.6-3. p.31 (大.2.6)	5008
2	我国発見の才二小惑星命名 ニッポニア (Nipponia) (No. 468531122)	月.6-7. p.105 (大.2.12)	5008
2	東京正午砲の成績 東京天文台調査	月.6-4. p.45 (大.2.7)	2003
2 9 15	9月15日の月食. 初席以下各現象の時刻観測及食中における星の掩蔽観測. 写真観測等準備.	月.6-7. p.81 (大.2.10)	5009
2	東京正午砲の成績 大正2年7月~12月及び正午砲の成績	月.6-12. p.142 (大.3.2)	2006
3 (1914)			
3	岡本元治のCambridge大学に留学(1916)	科学史研究 才17号	18167
3	Glazebrook 製の Kelvin 式潮候推算器の到着	科学史研究 才17号	18166
3	本台拡張の問題. 新築地の工事開始	学術大観 p.93	12050
3	三層の工事に着工. 5~10年本館工事. 8~14年才二赤道儀室他.	東大50年史	11008
3	東京天文台で三層村入敷地工事を開始	科学史研究 才17号	18165
3	太陽層の改良に就て(上) 牛尾壽	月.7-7. p.95 (大.3.10)	9007
	" " (中) "	月.7-8. p.87 (大.3.11)	9007
	" " (下) "	月.7-9. p.102 (大.3.12)	9007
3	西久光 東京天文台で経度観測に従事していたが9月11才三高等学校教授に榮転	月.7-7. p.84 (大.3.10)	503
3	無線電信による時刻報知の成績に就きて (概算圖表)	月.7-8. p.91 (大.3.11)	2011
3	明年3月の金環食 (予の清次). 1915年(大.4)8月11日の日食	月.7-9. p.99 (大.3.12)	5010
	小笠原島における金環食観測 東京天文台に於て 早乙女清房, 野村有太郎, 星野輝生らと共に, 水沢鏡度観測所の技師 橋元昌英等出張	月.8-4. p.60 (大.4.2)	5010
	天候不良 8月17日 横濱着	月.8-5. p.60 (大.4.3)	5010
		月.8-6. p.72 (大.4.7)	5010
4 (1915)			
4. 8. 11	大正4年8月11日小笠原島に金環日食, 予の清次, 早乙女清房の出張観測. 予の清次	科学史研究 才17号	18168
4	報時球落下用電池の代り新築置 (田代三郎)	月.7-10. p.112 (大.4.1)	2028
4	報時球の成績に就きて	月.7-12. p.127 (大.4.3)	2015
4	東京帝国大学理科大学助教授 理博 和 清次氏文部省より編纂法の研究のため, 米國へ2年用 留學を命ぜられた4月早乙女清房, 野村有太郎, 星野輝生らと共に, 水沢鏡度観測所の技師 橋元昌英等出張	月.7-12. p.149 (大.4.3)	9008
4	水沢臨時経度観測所にて"下層氣流と上層の關係"の研究開始	科学史研究 才17号	15169

大正	要	項	出典	カードNo
4 (1915)				
4	新城新藏が京大で特別講義“宇宙進化論”を行う		科学史研究才17号	18170
4	飯島忠夫の学位論文“支那古代史論”が通過		科学史研究才17号	18172
4	東京天文台年報附録の発刊		科学史研究才17号	18174
4	本台以外の学術誌に発表せる研究論文の別刷集を「年報附録」として海外に寄贈することになった。		学術大観 p.496	12038
4	平山清次が米留学(編暦法の研究)より帰日		科学史研究才17号	18173
4	平山清次が放物線(アメリカ)小惑星の軌道計算		学術大観 p.52 <small>(天文研究才17号)</small>	12071
4	日本の経度 (中野徳郎)		月.8-2, p.13 (天.4.1)	2029
4	今次の大戦と緯度変化観測事業		月.8-3, p.34 (天.4.6)	7009
4	大正3年東京正午砲の成績		月.8-3, p.37 (天.4.6)	
			月.8-12, p.66 (天.5.3)	
			月.10-4, p.26 (天.6.7)	2005
			月.12-8, p.121 (天.8.8)	
			月.13-2, p.16 (天.9.7)	
4	無線電信による時刻報知の成績 (帆足通直)		月.8-9, p.103 (天.4.12)	2012
			月.9-12, p.135 (天.6.3)	
5 (1916)				
5	長崎金比羅山金星経度観測記念碑 (田代三郎)		月.8-12, p.14 (天.5.3)	7010
5~10	三鷹本館工事		東京50年史	11008
5	本館拡張の向題 本館起工		学術大観 p.473	12050
5	東京天文台の標準時俣野船橋無線局から報時		科学史研究才17号	18175
5	報時事業 標準時を無線にて船橋無線電信局へ		学術大観 p.507	12005
5	天文台の位置 (船橋記念日) 北緯 35° 39' 17", 東経 139° 04' 30"		東京大学一覽 明治45-46	16001
5	経度 長崎に於ける経度電信測量の測度 (田代三郎)		月.9-1, p.5 (天.5.4)	2030
5	標準時球の成績 (帆足)		月.4-4, p.23 (天.5.7)	2016
			月.9-5, p.49 (天.5.8)	
			月.10-5, p.52 (天.6.8)	
			天文台100年同慶会誌	
5	太陽分光写真機による毎日の観測開始		科学史研究才17号	18176
5	海軍水路部に於ける長崎・東京間の経度差を測定		科学史研究才17号	18175
6 (1917) 4	三鷹村に於ける東京天文台本館の新築成る。		東京大学一覽 昭和44-45	16046
6. 6	三鷹村の官有地 652坪が内務省より所管譲とらたので、これを本学の所有とし天文台の敷地に加えた。		東京大学一覽 昭和44-45	16045
6	東京天文台でテッパ一製太陽分光写真機による太陽面細線斑の常時観測を開始		科学史研究才17号	18177
6	海軍水路部に於ける長崎・東京間の経度差を測定		科学史研究才17号	18175
6	テッパ一分光太陽写真機、 リーフラー一等振り子時計 二基 バーコナー一等子午環 あり未だ備付の僅らなり (天.10.1)		大学一覽 大正5-6	16071
	(大 12-13 には観測員建議中あり)			
6	時の測定 在野経度網が本台にて完結		学術大観 p.543	12006



大正	要	項	出	典	ナド
6 (1917)	天文時差止の議		月. 10-7, p. 82 (大. 6. 1)	9011	-
6	常用時の改良について (平山清次)		月. 10-10, p. 107 (大. 7. 1)	9012	-
6 (1918)	無線電信による時刻報知の成績 (中川通直)		月. 10-12, p. 136 (大. 7. 3)	2013	-
7. 6. 9	大正7年6月伊豆島の皆既日食に就て (有田 邦石) 報告		月. 10-9, p. 97 (大. 12)	5011	-
7. 6. 8	島嶼皆既日食(東京天文台, 京大宇部物理学教室)観測結果(台長通直) 科学史研究 第17号		月. 66-7, p. 181 (1923 (1924))	18180	6929 (1924?)
7. 7.	本邦 9年 18° 58' 27" - 139° 44' 40.9" を東京天文台の経度とし, 国内の経度はすべてこの値を基準とすること. 1918年7月文部省海軍陸軍各大臣建名で告示す. 理科年表の扉裏面に標準経度として掲げられた値. (建名記)			9038	
7. 12.	12月大学会が新制定す		科学史研究 第17号	18183	
7.	東京天文台大子午儀中心経度の値採定 大正7年 文部省告示号外 麻布区飯倉町東京天文台大子午儀の中心経度の値の採用. 139° 44' 40.9" 本邦に於ける経度はこの値に揃えしむ		天文台関係法令集	14002	
7.	東京天文台の職員数: 台長1, 技師2 (内兼任1), 助教技師2 (編暦1, 観測1), 司書6 (編暦3, 観測3), 雇員3 (観測2, 庶務1), 書記1, 使丁3, 雑士2, 計19.		科学史研究 第17号	18179	
7.	海軍水路部により 伊豆島・東京天文台間の経度差を測定 (中野徳太郎, 小倉伸吉の観測. これを無線観測による経度測定の世界網完成)		科学史研究 第17号	18181	
7.	日本経度基準を東京天文台(麻布区飯倉)の大子午儀の中心とす. (中野徳太郎による測定値: 東経 9° 18' 58.6" = 139° 44' 40.9")		科学史研究 第17号	18182	
7-8	大正7.8年報時成績 (有田 調査) 大. 7. 12. 大. 8. 12. 9		月. 13-12, p. 199 (大. 9. 12)	2018	
7	皆既日食観測隊の出発		月. 11-2, p. 28 (大. 7. 5)	5011	
7	6月9日の日食観測		月. 11-3, p. 50 (大. 7. 6)	5011	
7	島嶼皆既日食(河合章=2P). 6月11日 深見 喜太郎 山崎 新吾 観測 (U.T.)		月. 11-4, p. 60 (大. 7. 7)	5011	
7	標準時球の成績を記す		月. 11-8, p. 125 (大. 7. 11)	2017	
7.	東京天文台庁舎と官舎の一部落成		月. 13-3, p. 46 (大. 7. 3)	5013	
7	経度観測 麻布天文台の経度告示 (今川 東京内の経度差を以て)		学術大叢 第52号	12004	
8 (1919)					
8	東京天文台の器械増設 (1888年以來): 5吋赤道儀, フラッシュ-製5吋天体写真儀, 同4吋太陽写真儀, 8吋ヘリオスコープ, 12吋シネロスコップ, パンヘルヒ製4吋子午儀, ゴーテ製一等子午儀, 11-7-3-製1等時辰儀2基, その他の時辰儀 數基, シロメーター 數個, 光度計, 合光器, 写真測定器. シロメーター等		科学史研究 第17号	18186	

大正	要	項	出	典	頁	
8 (1919)						
8 3. 31	東京帝國大學官制 (勅令才50号) 公布, 才9条により天文台は理学部附屬東京天文台とす		天文台100年四十年表			
8 8. 1	水路部編輯曆課設置す。(水路部編輯曆課の50年進士是記)		月. 62-11. p.271 (昭和11) 1969	9023		
8 10.	寺尾台長 → 平山信台長		學術大観 p.474	12048		
8.	東京天文台長更迭: 寺尾壽 (初代) → 平山信 (2代)		科学史研究 才17号	18189		
8	寺尾壽が東大名誉教授		科学史研究 才17号	18190		
8	帝國大學理科大学を帝國大學理学部と改称し, 必修, 選択, 选修の科目制を定む.		科学史研究 才17号	18185		
8.	本学官制が新たに制定せられたる. 12条 → 9条に, 理科大学 → 理学部に改正		東京大学 50年史	11005		
8	萬國學術研究會議成立. 大正18年 フランスに於て總會に 平山清次 派遣		學術大観 p.498	12025		
8	國際學術研究會議が創立		科学史研究 才17号	18187		
8 10	京大 佐々木哲夫が スーレー 周期彗星を発見 (10月)		科学史研究 才17号	18188		
8	神戸 海洋気象台が設立し, 10吋赤道儀による太陽常時観測を開始		科学史研究 才17号	18184		
8	連合子午儀及太陽分光写真室の完成の他官舎の一部落成		月. 13-3, p.46 (大. 9. 3)	5013		大正11年 9. 6 誌 204
8	札幌 通道の計 東京理科大学助手. 8. 2. 14 逝去. 43才		月. 12-2, p.38 (大. 8. 2)	2		
8	札幌 通運局長を博志 (有田邦雄)		月. 12-3, p.51 (大. 8. 3)	3		
8	即々募集		月. 12-4, p.70 (大. 8. 4)	506		
8	帝國の天文台に就いて (河合章二著). 沿革, 設備, 研究, 改築他		月. 12-9, p.137 (大. 8. 9)	5012		
8	理学博士 寺尾壽先生の辞任 (有田邦雄) 10月.		月. 12-10, p.155 (大. 8. 10)	505		
8	平山清次学転. 寺尾博士の後任として教授に学転 (有田邦雄)		月. 13-1, p.14 (大. 9. 1)	506		会費消息
8	會計掛 早乙女清房 (助教授) と共に天文学才一講座を分担					
8	平山信 寺尾博士の後任として東京天文台長に, 大正8年秋		月. 13-1, p.14 (大. 9. 1)	508		会費消息
8. 12. 6	前東京天文台長 寺尾博士の送別会 昨年 (大正8年) 10月, 帝大教授, 東京天文台長を辞任された寺尾博士の送別会 8年 12月 6日午後1時 東京天文台 講堂にて台長により開催		月. 13-2, p.31 (大. 9. 2)	507		
8	東京天文台の建築進行. 新下三陽村に新築中の天文台. 材料工費等の騰貴のため延期. 庁舎及官舎の一部は前年度に落成. 来年度のこと未定であるが, 赤道儀及仰角儀その他の建築は予定.		月. 13-3, p.46 (大. 9. 3)	5013		雑誌



大正	要	項	出	栄	カトNo
9 (1920)					
9. 5. 16~	時の展覧会と教育博物館と文部省の主任		科学史研究 才17号	18205	
9. .	生活改善としての時の展覧会、付正確な時の得方 (有田邦雄)		月. 13-6, p. 77, 80 (大7.6)	9013	
9. 6.	太陽写真儀室, 分光儀室, 連合子午儀室等の新築成り.		東京大学一覽 (44.4)	16084	
9. 8. 22	新星の発見 大正9年8月22日 白鳥座に新星発見 (神田茂清) (8月20日, 英國人により発見されりたものなるが発見 電報が、下かつた)		学術大観 p. 532	12010	
9. 8. 22	神田茂, 神田清が白鳥座才3新星を発見 (8月22日)		科学史研究 才17号	18198	
9. 9. 16	新潟県中頸城郡柳地村に隕石落下, 東京天文台 研会幸二郎の出張調査		科学史研究 才17号	18196	
9. 11.	一戸直哉が11月に死去 (変光星の研究, 天文帯及に業績を録)		科学史研究 才17号	18203	
9. 11	一戸直哉 歿 訃文及看書目録 p. 185, p. 186.		月. 13-12, p. 185 (大7.6) p. 185, 186.	4	
9. 12. 10.	万国学術研究会, 学術研究会會館により帝國學士院で11 會員 94名を選出, その才一回總會を 12月10日開會, 會長古市工博, 副會長 櫻井理博を選, 学術部の種類を 天文学, 物理学, 地球物理学, 化学, 地質学及地理学, 生物学, 医学, 工学の八部と決定. 翌11日引続協議, 各部の部長, 副部长選考, 天文学部に属する會員, 幸尾 再, 平山信 (部長), 木村榮, 新城新藏 (副部长), 平山清次, 早乙女清彦, 中野徳郎, 石原純		月. 13-12, p. 189 (大7.6)	9014	
9	学術研究会議創立, 文部省で幸尾 その他活躍		学術大観 p. 493	12027	
9	学術研究会議の成立		科学史研究 才17号	18191	
9	東京天文台で太陽写真儀室の竣工		科学史研究 才17号	18194	
9	水沢緯度観測所が國際天文同盟の緯度変化部中央局に 指定され, 木村榮が同部部長		科学史研究 才17号	18192	
9	東亞天文協会の創立 (會長 山平一清)		科学史研究 才17号	18193	
9	莫スコオールド (神中在位) が20cm反射鏡で火星面の観 測を開始		科学史研究 才17号	18197	
9	平山清次が小惑星の軌道要素の研究により小惑星と発見		科学史研究 才17号	18199	
9	京大 百濟教授がテンハル才2周期回星の再帰を計算に より自覚見		科学史研究 才17号	18200	
9	京大天文台でブレイザー 聚 10cm反射鏡を置		科学史研究 才17号	18195	
9	東京の午砲を廢止		科学史研究 才17号	18204	
9	平山清次の東大天文学教授と成り.		科学史研究 才17号	18202	
9	橋元忠英 (水沢緯度観測所技師) が留學 (1885-5)		科学史研究 才17号	18201	
9	東亞天文協会が機関誌 "天界" 及び "Bulletin" を發行		科学史研究 才17号	18206	
9.	本台拡張の開設, 太陽写真儀室竣工		学術大観 p. 493	12050	

大正	要	項	出	典	冊+No.
10 (1921)					
10 11 22	大正10年11月22日 勅令才450号 東京天文台官制の公布		東京大学一覽	昭44-45	16043
10 11 22	平山 信博士、東京大学教授、東大理学部付属東京天文台長であつたが、官制の公布と共に東京天文台長に。勅令才450号参照			月.14-12, p.189, (大10.12)	510
10 11 23	大正10年11月23日 勅令才450号 単行官制の公布 明治21年勅令才81号の廃止 (理学部付属→東京帝國大學附置) 天文学に関する事項, 時の測定, 報時及時計の檢定に関する事務, 天象觀測及曆書調製		東京大学 50年史		11004
10 11 24	東京天文台官制 大正10年11月24日 勅令才450号 明治21年勅令才八十一号は廃止する (その後度々人員等変更の勅令が出る)		天文台関係法令集		14007
10 11 24	理学部 附屬より離れて、本学に移置せらるることになった 大正10年11月24日勅令才450号、官制が公布。天象觀測、曆書調製、天文学に関する事項の研究、時の測定、報時及時計の檢定、本台の管掌することとなった		学術大觀	p.494	12049
10 11. 24	東京天文台官制 11月24日の官報をもって公布、勅令才450号 (大正10年11月22日) 才一條より才七條まで。才一、東京帝國大學に東京天文台を付置す。才二、業務。才三 職員、才四 台長以下、才五 技師、才六、書記、才七 技手。		月.14-12, p.189 (大10)		509
10	天文台 東京大学附屬となる		東京大学一覽	昭34-35	16002
10	東京天文台官制制定記念祝宴の記念撮影、平山信台長、平山清次、早乙女、松隈、萩原、神田氏		月.62-3, p.44 (昭44)		5169
10	勅令(政令)による人事、台長、技師2、書記2、技手3 以下、大正11、12、昭和2、7、9、16、18、19、21、23、24年まであり。		天文台関係法令集		14010
10	職員 台長 平山 信。 技師 平山 信、平山清次 (昭.2-3まであり、昭44まで)、 早乙女清彦 (昭10まであり、昭11にはなし)、 百濟 敬猷 (大.12-13にあり)、 橋元昌徳 (昭.15まであり、昭.16にあり)。		大学審覽	大10-11	17004
10	東京天文台で才一赤道儀室及び"連合子午儀室"が竣工		科学史研究	才19号	18207
10	東京天文台本部が東京府北多摩郡甲斐鷹村に移轉 (東大直屬の研究機関となる)		科学史研究	才19号	18208
10	彗星の光度觀測 大正10年頃より実視觀測 (神田氏)		学術大觀	p.526	12017
10	本台拡張の向是、才一赤道儀室、聯合子午儀室竣工		学術大觀	p.293	12050



大正	要	項	出	典	カドNo
10 (1921)					
10	創立より大正10年官制公布に至る33年間、本台は理科大学(物理学部)に付属する關係上、編暦、報時等の業務の他教室としての教授研究も行った。		學術大觀	p.493	12051
10	業務 遞信省の依頼で船橋、銚子無線電信局を経て至して航海中の船に無線電信で毎日午後9 <sup>h</sup> 0 <sup>m</sup> , 1 <sup>m</sup> , 2 <sup>m</sup> , 3 <sup>m</sup> , 4 <sup>m</sup> を報知。本台の時辰儀と兩局の送信機は陸上電線で連絡 神奈川、兵庫、福岡県の依頼で囑託員をして横浜、神門司の標準球に正午を報知し、時辰儀を使用。		東京帝国大学一覽	大 10-11	16066
10~11	天文台の位置 麻布館倉三丁目、北緯 35° 39' 17", 東經 139° 44' 40.9"		東京帝国大学一覽	明14-15 ~ 1711	16001
10	東京天文台 神田茂、井上四郎が北海道でウインネツ彗星流星群を観測		科学史研究	第17号	18210
10	松隈健彦、神田茂が山梨・長野両県下の三角点で鉛直線偏差測定のための経緯度測定(以後毎年各地で測定)		科学史研究	第17号	18211
10	平山清次が曆書所載事項に蓋率的改良を行う。		科学史研究	第17号	18214
10	萩原雄祐が編暦学、天体力学研究のため改米留学		科学史研究	第17号	18213
10	京大・中村 喜が彗星ヘルセラス座22を発見(1831訂正)		科学史研究	第17号	18212
10 10 13	福見尚文 フランスパリより帰朝、10月13日東京天文台技師に任ぜらる (会員消息)		日. 15-11, p. 179 (大. 11. 11)		517
11. (1922)					
11 2. 7	早乙女教授、東京帝国大学助教授兼東京天文台技師2月7日に東大教授に任ぜられた		日. 15-4, p. 66 (大. 11. 4)		512
11	早乙女清彦が東大・天文学教授となる		科学史研究	第17号	18220
11. 4 15	井上四郎 大正11年4月15日 東京天文台 囑託から東京帝国大学助手(理学部勤務)兼、東京天文台技師に任ぜられた。		日. 15-5, p. 81 (大. 11. 5)		514
11. 4 26	東京天文台官制の改正。4月27日の官報を以て発表 大正11年4月26日 内閣総理大臣 高橋是清 文部大臣 中橋徳五郎 勅令第220号 第三条中「技師要任三人」ヲ技師「専任四人」ニ 「三人ヲ六人」ニ改ム (三人は専任技師の定員)		日. 15-5, p. 81 (大. 11. 5)		513
11. 6 15	及川泉郎 東京天文台技師に任ぜられた (会員消息)		日. 17-6, p. 95 (大. 11. 6)		519



大正	事	項	出典	カドNo.
11. (1922)	東京天文台官制改正し(天象観測, 曆書調製の行かに天文学研究, 時の測定, 報時, 時計の檢定を加ふ). 技師4人, 技手6人に増員		科学史研究才17号	18215 ✓
11	編曆事業, 官制により曆書調製の本台の所管		学術大観 p.537	12007
11 5	平山信が5月ロ-マでの国際学術研究会議 天文学部(国際天文同盟)の第一回総会に副議長として出席.		科学史研究才17号	18218
11	万国天文学協会成立, 第一回(ロ-マ)総会. 平山信出席		学術大観 p.498	12024 ✓
	世界各地の天体祭見を電報により通報. 本館各地には本台が当			
11	万国天文学協会総会に於て可決された決議事項		(b) 月.14-1, p.7. (c) 16-3, p.29. 月.15-6, p.14 (x.11.9)	9015
11.	平山信 東京天文台長の帰朝 大正11年5月19日ロ-マに開帆. 樺太に上陸. 神宮を経て9月2日横浜に無事帰朝		月.15-9, p.147 (x.11.9)	515 ✓
11	ロ-マの国際測地学, 地球物理学連合総会に平山台長参加		天文台10年, 42年表	
11	早乙女清彦氏博士論文 現東京帝国大学教授(理学部物理). 兼東京天文台技師 6月24日論文提出により理学博士の学位授与. 論文・東京天文台年報才5号才4号と2に出版		月.15-8, p.126 (x.11.9)	557 ✓
11	東京天文台が才又期工事を起工(予算70万円)		科学史研究才17号	18216 ✓
11. 8. 15	東京正午砲廃止. 明治4年9月太政官達才453号により毎日正午に東京城本丸内に發射されていた号砲が軍備縮少のため 陸軍省が決定され 8月15日以後廃止されることになる. — 今陸軍省の管轄で陸軍省にまつている.		月.15-8, p.131 (x.11.9)	2006 ✓
11	東京の午砲 軍備縮少のため 本年8月15日以後廃止された東京午砲は 東京市役所社会教育課にて引き継ぎ 砲台の間 砲手等は陸軍に依頼し, 場所も元のまま. 今迄通り 東京天文台より電気信号法により時計を發し, 一日の休みなく引継ぎ毎日發砲されている.		月.15-9, p.147 (x.11.9)	2007 ✓
11	寺尾壽の仏コマンドール・メリット・アグリコル勲章を受く.		科学史研究才17号	18221
11	東京帝国大学助手兼 東京天文台技師 理学士 神田茂 本年6月米国天文学会変光星観測部員に推薦され.		月.15-9, p.147 (x.11.9)	558
11	京大 中村安が 国際火星観測連盟のメンバーとして観測に従事		科学史研究才17号	18217
11	報時事業 学用報時		学術大観 p.547	12005
11	木村 榮が 吹上緯度観測所を視察		科学史研究才17号	18219
11	山本一清(京大助教授)が未留学(〜1925)		科学史研究才17号	18222
11.	加州大学天文科を卒業した山崎正光氏 3月27日帰朝 (全頁消息)		月.15-4, p.66 (x.11.4)	511
11.	和歌山権時球観測所技師田代庄三郎氏同所を辭し 東京天文台に属託に. (全頁消息)		月.15-4, p.66 (x.11.4)	511

大正	要	項	出典	カ-№	
11 (1922)	有田邦雄氏 (東京帝大助手、東京天文台勤務) 田代氏の後任として 長崎県技師に学転 (会費消息)		月.15-4. p.66 (大.11.6)	511	✓
11	松隈健彦 一高教授兼東京天文台技師、東北帝国大学講 師に転任 (会費消息)		月.15-10. p.163 (大.11.10)	516	✓
11	古川龍城, 9月7日 京都帝国大学助手から東京天文台技 師に転任 (会費消息)		月.15-10. p.163 (大.11.10)	516	✓
11	勅令 (政令) による人事。台長、技師4、技手6		天文台関係法合集	14010	
11	三鷹で経度・緯度の観測開始		天文台100年略年表		
12 (1923)					
12 3 20	萩原石雄編暦事項研究のため2年間英佛輸入在留命せらる		月.17-6. p.95 (大.13.6)	519	✓
12 3 31	萩原石雄東京帝国大学助教授に任せらる。 (会費消息)		"		
12 4 25	福見尚文 東京帝国大学理学部講師に転任 (会費消息)		"		
12. 6. 10	時の記念日 大正9年時辰観会の際、生活改善同盟会 にて時の記念日を定め時辰尊重定時励行の宣傳を目的、 毎年行をい、今年も6月10日時の記念日奉行。日曜である が東京天文台は特に午後1時、電信局、横時球、無線電 伝導の報時信号を発信した。		月.16-6. p.97 (大.13.6)	9016	✓
12 7 18	東京天文台技師理学士百濟政次病歿の事 (会費消息)		月.17-6. p.95 (大.13.6)	520	✓
12. 7. 23	理学士 神田 茂 東京天文台技師に任せらる。 ( " )		月.17-6. p.95 (大.13.6)	520	✓
12. 8. 6	寺尾 壽 死去 (安政2年生) 前東京天文台長、理学博士、理科 大学付属天文台 初代台長。 平詞 - 日本天文学会、韓文録 平山信、(田中館、早乙女博士洋行中の石の平詞作(小作) 肖像画。表紙写真に(黒田清輝筆油絵)を複製) ( " )		月.16-8. p.127 15-9 p. 131-143 大.12. 8 1923	5	死去の日 5月4日
	1855(安政2)年9月25日 福岡県生、1884年(明治17)~ 1919(大正8) 東京大学教授、1888(明治21)以降東京天 文台長を兼ねる。1923(大正12)年8月逝去		月.50-1. 巻紙(1927)	5	
12. 8. 12	寺尾 壽が5月12日死去(安政2年 1855生、初代東京天文台 編暦、湖地、理学教育に業績大)	科学史研究 第17号	18228		死去の日 5月12日
12. 9. 1.	関東地方大震災 大正12年9月1日 午前11時58分半。 関東地方に大地震あり。総じて火災を起し類焼(15都市、 町村甚多し。東京天文台も少くも被害を被つた。天 原器、時辰儀の大部分は壊れ多く報時事務用機、 電信無線路の復旧は、個所あり。横濱(破損)横 神戸門司の報時球回復せず。	月.16-9. p.163 (大.12.9) 1923	5015		
2.	関東大地震による東京天文台関係の被害: 麻布では5時35環 が破損、3時ハンベルツ管破、4時赤道儀土台基底折る。 (望遠鏡無事)。三鷹では1-7-5時計の玻璃筒破損、正報時 中央無線局回路が9月13日、鎌倉船橋回路が9月19日に修理。	科学史研究 第17号	18226		



大正	要 項	出 典	カドNo.
12 (1923)	大震害に逢ふの言記 (河合章二郎記) 天文台被害小五時子儀, 三時ハンベルと子午環, 小子午儀, 無事台の... 第一赤道儀, 七時及天体写真儀, 五時赤道儀, 四時赤道儀, 30x7-1. 11-7-5-358 三陽村新天文台撰寫及び状況... 11-7-1 柱, 天頂儀及子午儀, 赤道儀, 井戸式時計室, 連合子午儀室, 写真五葉あり (視察の) "時辰儀の一部急遽修理を成し在りて電信線が復旧せず, 報時の事務回復遅れ, 中央電信局を経り正午報時は9月13日から, 銚子, 船橋の無線電信は試験的に9月17日から始められた. 11月に入れば完全に復旧の見込みあり." 横浜 (焼失) 神戸, 門司の標時球も電線復旧に先が回復した. 標時球は港務部が焼失し保費焼死のため回復の見込みがない.	月. 16-11, p. 170~172 (大正 12. 11)	5016
12	震災と時計 報時機関で3年続も1時休止の後, 9月6日より打ち始めのため, 焼失建造物爆破の音とそれ以外に, 平山清次氏の発案により, 東京市社会局にて市内10数所に時計を掲出し, 東京天文台が毎日自動車にてこれを訂正.	月. 16-11, p. 174 (大正 12. 11)	5016
12	9月の関東大地震で三鷹への移転促進	天文台100年時評集より	
12. 11. 9	東京天文台長 平山信博士 大正12年11月9日 英国王立天文学会の会友 (Associate) に推薦する { 軌道論, 太陽面の温度 理論 [ 字裏に及ぶ子午線経度の観測についての論文 認められたものと認められる	月. 17-3, p. 41 (大正 12. 3)	518
12	平山信が"英王立天文学会会友に推薦された"	科学史研究 第17号	18229
12	東京天文台の官制が改正し, 技師5人 技手8人に増員	科学史研究 第17号	18225
12	東京天文台で夏期学用式報時の開始	科学史研究 第17号	18224
12	橋本昌隆, 及び奥部が三鷹・社布新天文台の経度差測定	科学史研究 第17号	18223
12	経度観測 社布三鷹の経度差観測. 11の時報受信.	学術大観 p. 52	12004
12 10	文部省測地学委員会に国際報時計を設置することを決定. 10月21日. 東京天文台構内で国際報時計受信開始. 三鷹1号子午儀の経度18°18'10" 測	天文台100年 略年表	
12	経度観測 三鷹の本台の経度 35° 40' 21.4 (修正)	学術大観 p. 53	12003
12	草稿 遞信省の依頼で"船橋, 銚子への標時報時計の他に夏期中毎夜11時船橋無線局を通じて学用報時を存す"	東京市同僚 大. 12	17002
12	学術研究会議にて天文学及地球物理学精報(其二) 巻刊	科学史研究 第18号	18230
12	戸田光綱(東京天文台技師)が彗星カシオペアYYを発見 発見は明治41年であったがこの年発表確認-科学史研究社時評	科学史研究 第17号	18227
2	時の測定 国際報時事業に参加	学術大観 p. 53	12006
2	職員(大澤寛大10-11より来た人) 技師, 及び奥部, 福見高文, 神田孝 昭和17年まで 昭和25年にまで	天学一覽 大正 12-13	17005
2	勤令11人等, 台長 技師5, 技手8	天文台内閣法令集	14010

大正	事	項	出	典	冊 No.
(1924) 13 2 13	高田熊太郎死去 60才、慶元元年11月1日 福島に生ず。天文台書記並に臨時司理		月. 17-4, p. 57 (2. 13. 4)		6 ✓
13. 2. 27	船橋無線電信局より電信 予 東京天文台の報用信号は從來 花苞式「4000 m」にてあり本年2月16日(夜)に変更。(電信省告示第254号) 告示一 当分の内 持続電波「6500 m」に変更す 大正13. 2. 27号		月. 17. 3, p. 47 (2. 13. 3)		2024 ✓
13. 3.	木下 国助、東京帝国大学、理学部天文学科卒業、東京天文台 技師に任ぜらる (大正13. 4. 10)		月. 17-6, p. 95 (2. 13. 6)		520 ✓
13. 5. 8	水星の太陽面経過を観測		科学史研究 第17号		18234 ✓
13. 6. 17	6月17日以後は東京府北多摩郡三鷹村新東京天文台に於て 報時事務取扱ふ。		月. 17-8, p. 127 (2. 13. 8)		2023
13. 6. 23	東京天文台技師 理学士 橋元 啓策 東京帝国大学 理学部 講師に任ぜ		月. 18-1, p. 4 (2. 14. 1)		521 ✓
13. 7. 1	船橋無線報時電波長復旧。本年(1924) 2月16日より持続電 波を以て電信(7月1日)より 花苞式 4000 m に復旧 する旨告示 (電信省告示 第946号) 大正13. 7. 1付		月. 17-7, p. 111 (大正13) 1924		2024 ✓ 1607
13.	船橋無線電報時を完全に復旧		科学史研究 第17号		18233 ✓
13. 8.	日本天文学会事務所住所変更。東京府北多摩郡三鷹村 東京天文台構内、大正13年8月上		月. 17-8, p. 127 (2. 13. 8)		9017 ✓
13	日本天文学会が三鷹の天文台構内に移転		科学史研究 第17号		18232 ✓
13. 9. 1	東京天文台移転 9月11日官報所載 文部省告示 第362号、東京天文台ハ 大正十三年九月一日刊、其ノ事務ノ一部ヲ東京府北多摩 郡三鷹村大字大沢ノ新菅倉倉ニ移転セリ、大正13年 9月11日 文部大臣 岡田 良平		月. 17-10, p. 158 (2. 13. 10)		5017 ✓
13. 9.	三鷹主要建築物竣工。13年7月 麻布より移転		東京大学 50 年史		11007 ✓
13.	天文台の厂史 大正13年 三鷹に移す		東京大学一覽 昭30-33		16002
13	東京天文台で才之赤道儀室、子午環室、天体字真儀室、卯酉儀室 連合子午儀室が竣工し、大部分が移転、麻布の施設 は東大天文学教室とす。		科学史研究 第17号		18231 ✓
13	本台拡張の問題 大正13年 才之赤道儀室、子午環室、 天体字真儀室、卯酉儀室		學術大觀 p. 473		12050 ✓
13	工事中の子午環室、写真あり、本年9月撮影 三鷹村新天文台本台官 西方に建設中 コーヤ-8吋 子午環用。		月. 17-11, p. 175 (大正11) 1924		5018 ✓
13.	三鷹村 新東京天文台(一) (1) 序 東京府北多摩郡三鷹村 大正13年9月 新天文台に 引移り、観測編暦其他事務開始 五分の一の略図、東京天文台付近の略図。 (2) 沿革 月報12巻9号に可令幸ニ即成ニ精細子午環の建設 明治42年3月天文台取地として三鷹村に土地30万 <sup>2</sup> 買収 大正3年(上)より一期工事(年費22万 <sup>2</sup> ) 大正11年度より3年連続事業として二期工事(年費20万 <sup>2</sup> ) 設備也、整(1)完成下の記載あり、東京天文台の略図		月. 18-8, p. 117~p. 120 (2. 14. 8)		5019 ✓



大正	要 項	出 典	号 簿
13 (1924)	(3) 時の測定 時刻の測定及此の報時規則的に行はる。橋元技師主任、技師6名携わす。器械 聯合子午儀室に据え付ドイッパ-ンハルヒ製子午儀2台及此の同種の予備器械2台(口径6寸、倍率110倍、自記測微計付)他にフランス・ジーエ製自動測微計付子午儀取付準備中。	月18-8, p.117-p.120 (大.14.8)	5019
13	三鷹村新東京天文台(二) (4) 赤道儀観測 天体写真儀、太陽写真儀 8吋赤道儀使用す。主任技師早乙女博士他技師2名、技師2名携わす。写真3葉、東京天文台本館、天文台主要建築物全景、聯合子午儀室	月.18-9, p.136-p.138 (大.14.9)	5020
13	三鷹村新東京天文台(三) (5) 編暦事業 大正13年7月 三鷹村移転後迄従前編暦事業を継続し、本暦、旧本暦を編纂。編暦係は 福見技師主任、技師2名、雇員1名 (6) 理科年表 大正12年6月編暦事業折込の定数の増加により理科年表係新設 大正14年2月大正14年分(才一冊)を發行、年々一冊を刊行の予定。理科年表係は 平山清次技師、神田技師を主任とし、技師2名、雇員1名 (7) 東京天文台現在の職員。従来東京帝国大学理学部所屬であつたが、大正10年12月官制の改革により東京帝国大学に直屬することとなり、その後定員の増加により専任技師5名、専任技師8名とす(詳細 p.152) (8) 麻布旧東京天文台 現在は主に東京帝国大学理学部天文学教室として学生の講義、実地観測他に使用。写真2葉あり(8吋赤道儀室、太陽分光写真儀室の一部)	月.18-10, p.150-p.153 (大.14.10)	5021
13	大正13年9月移転	帝國大学40年報(大14年)	15026
13	新天文台聯合子午儀室の経緯度 おおよそ 東経 9時 18' 10.09 北緯 35° 40' 21.5	41年報(大13年) 月17-8, p.127 (大13.8) 1924	2023
13	天体の赤道観測 子午環室完成(平山清次)	学術大観 p.502	12022
13	英スコールド(神在任)が太陽紅斑の實現観測を試む	科学史研究 才17号	18235
13	東京天文台編 "理科年表" 才1冊 発行(以後毎年)	科学史研究 才17号	18236
13	大正13年末"理科年表" 才一冊(大正14年版)を發行	学術大観 p.496	12037

大正	要	項	出	典	D-No
13 (1924)	日本天文学会會員の彗星の観測を天文月報に発表開始		科学史研究 才18号		18237
13	報時事業 大阪港の標時球に正時通報		学林大観 p.547		12005
13	業務 逓信省の依頼 正午時通報の所ふた	大阪の港務部(全球 全国郵便電信局) 横浜 神戸 川崎 東京帝国大学地球物理学	東京帝国大学要覽 大 13-14		17001
	東京市の依頼 正午の号砲発射の時刻を報知				
	逓信省の依頼 船橋、銚子を経て船舟に報知する 時刻は午後9時の他に午前9時をふた				
	大正15~昭2には午前11時に戻つて 報時修正値を翌月の官報で報告				
13	午後9時無線報時修正値 日曜日を除き毎日午後9時 東京天文台から船橋及び銚子無線電信局を経て時刻の 信号発信していたが その発信時刻の修正値を発表(今 後続行て発表 1924, 1月より5月迄の値あり。		月. 17-7. p. 111 (大137) 1924		2023 ✓
13	船橋及銚子無線報時修正値 1924 6月及7月午後9時		月. 17-8. p. 127 (大138)		2023 ✓
13	船橋及銚子無線報時修正値 1924 8月, 9月 午後9時		月. 17-10. p. 152 (大1310)		2023 ✓
13	船橋及銚子無線報時修正値 1924 10月, 午後9時		月. 17-11. p. 175 (大1311)		2025 ✓
	1924 11月, 12月 午後9時		月. 18-1. p. 14		" ✓
13	会費消息 東京天文台技師 百濟教猷 桶屋の石の休職 (大正12.7.18) 東京天文台技師 古川龍城 辞職 (大正12.11.8)		月. 17-6. p. 95 (大13.6)		520
13	職責 (大学一覽 大12-13と異つて在) 技師 木下国助 昭6年2月あり。昭7=17年(		大学要覽 大12-14		17006
13	7.7.21 - 天体写真機三鷹へ移動, =AL1=より小惑星 8個を発見(及川)		天文台100年 略年表		
13. 6 7	福見尚文 東京帝国大学助教控兼任 (会費消息)		月. 17-6. p. 94 (大13.6)		519 ✓



これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)